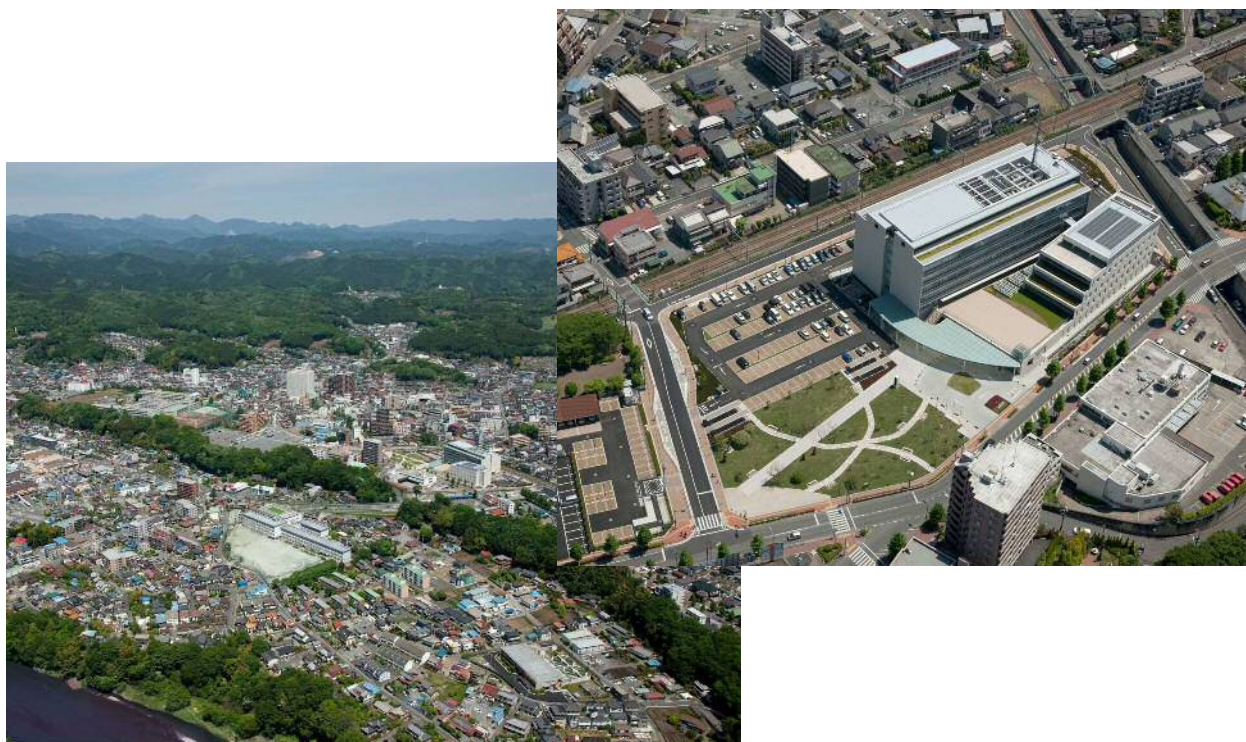


青梅市公共施設白書



平成25年11月
青梅市

はじめに

青梅市は、昭和 30 年代以降の高度成長期に伴う人口増加や行政需要の高まりを背景に、市民ニーズ・行政サービスの多様化が進んだことから、多くの公共施設の整備を行ってきました。

これらの施設の中には、老朽化が急激に進行する築 30 年以上の公共建築物が多く、施設を維持管理するために多くの経費が掛かっているとともに、今後は、大規模な改修や建て替え時期を迎え、施設の機能を維持・更新するための計画的な修繕、改修などに多額の費用が必要となります。

しかしながら、厳しい財政状況の中、施設の老朽化等に対応する費用を確保していくことは、市財政にとって極めて大きな負担であり、すべての施設を維持していくことが困難な状況にあります。

また、全国的な人口減少、少子高齢化等の社会環境の変化とともに、公共施設を取り巻く情勢も変化してきているため、将来を見据えた公共施設の再編・再配置等についての検討も必要となっています。

このため、今後の公共施設のあり方を考えるにあたり、施設ごとの概要、施設運営に要する経費、利用状況等を取りまとめ、公共施設に関する検討を行う基礎的な資料として「青梅市公共施設白書」を作成しました。

本書を活用して、今後の公共施設のあるべき姿を市民の皆様と一緒に考え、施設の有効活用、維持管理、保全整備の考え方を整理する「公共施設マネジメント」を進めてまいります。

目 次

1	人口・財政状況	
(1)	人口	1
(2)	財政状況	3
2	施設保有状況	
(1)	公共建築物の推移	5
(2)	用途別保有状況	7
(3)	公共施設配置状況	9
(4)	施設にかかるコスト（費用）の試算	12
3	個別施設の状況	
	掲載データについて	13
◆	市庁舎	16
◆	東青梅センタービル分室	18
◆	小学校	20
◆	中学校	24
◆	学校給食センター	28
◆	健康センター	31
◆	子育て支援センター	33
◆	福祉センター	35
◆	地域保健福祉センター	38
◆	自立センター	41
◆	しろまえ児童学園	43
◆	障がい者サポートセンター	45
◆	釜の淵市民館	47
◆	北小曾木ふれあいセンター	49
◆	永山ふれあいセンター	51
◆	御岳山ふれあいセンター	53
◆	市民会館	55
◆	郷土博物館	57

◆ 美術館	59
◆ 総合体育館	61
◆ 永山体育館	63
◆ 水泳場	65
◆ 市民センター	68
◆ 総合病院	73
◆ 看護職員住宅	76
◆ じんかい収集基地	78
◆ リサイクルセンター	80
◆ し尿処理場	83
◆ 共同利用工場	85
◆ 市営住宅	88
◆ 火葬場	94
◆ 市民斎場	96
◆ 下水道中継ポンプ場	98
◆ 交通公園	101
◆ 東青梅駅北口自転車等駐車場および公衆便所	103

4 その他の施設（延べ床面積が 500 m²未満）

◆ 消防施設	104
◆ 学童保育施設	105
◆ 体育施設管理棟	105
◆ 文化財	106
◆ 木造市営住宅	106
◆ 診療所・医師住宅	106
◆ 下水道中継ポンプ場	106
◆ 公園便所・公衆便所	107
◆ 公園管理棟	108
◆ その他	108

(参考資料) 施設別ライフサイクルコスト	109
----------------------	-----